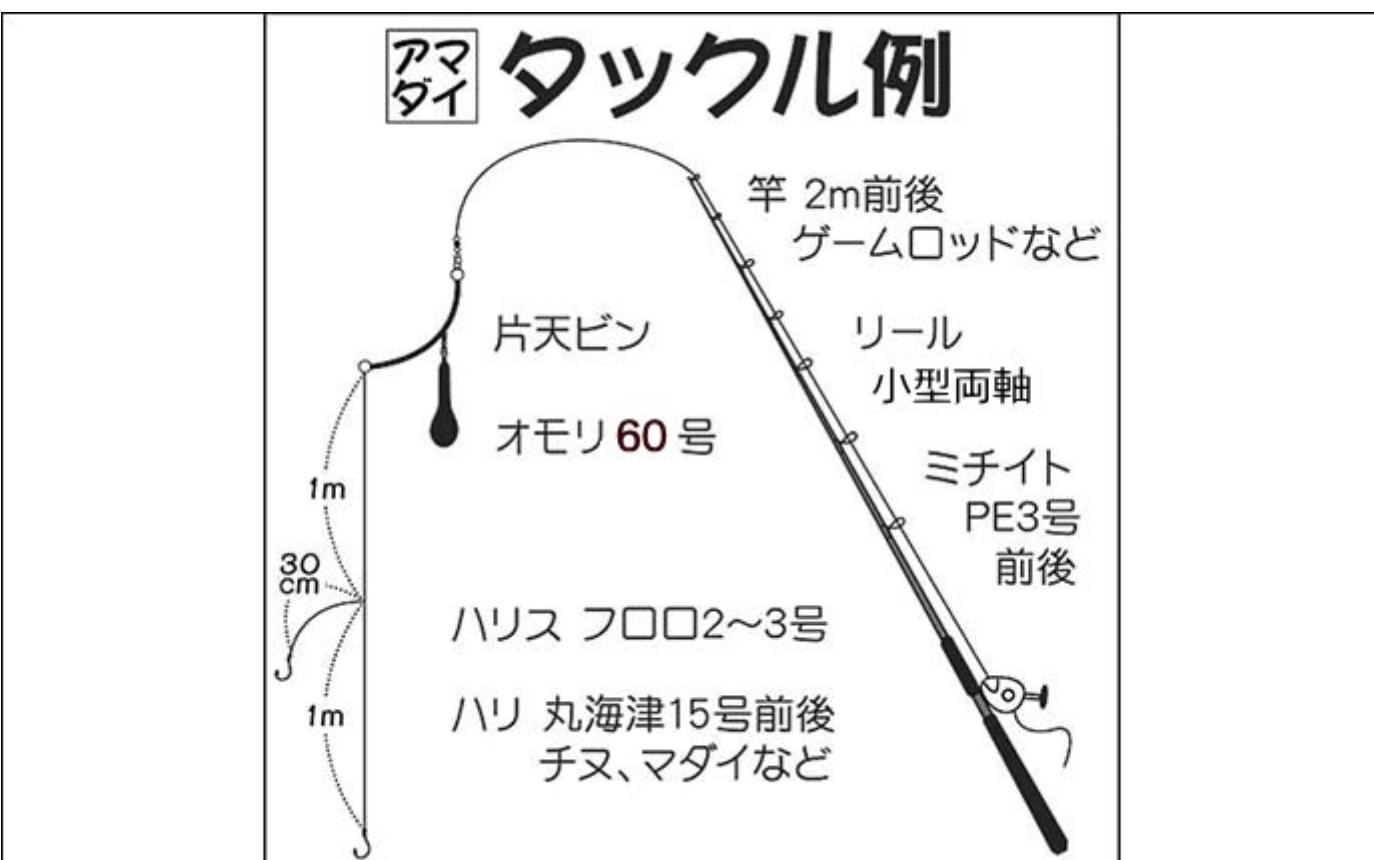


アマダイ釣り 基本の仕掛けと釣り方＆釣果UPテクニック

アマダイ釣りのタックル

アマダイ釣りの竿

竿はアマダイ専用ロッドや汎用ライトゲームロッドなど。



アマダイ釣りのエサ

オキアミ

両目の付いた身がしっかりしたものを見選び、針の軸に対して真っ直ぐになるように付けましょう。誘いをかける釣りなので丁寧なエサ付けは釣果に直結します。

エサの付け方



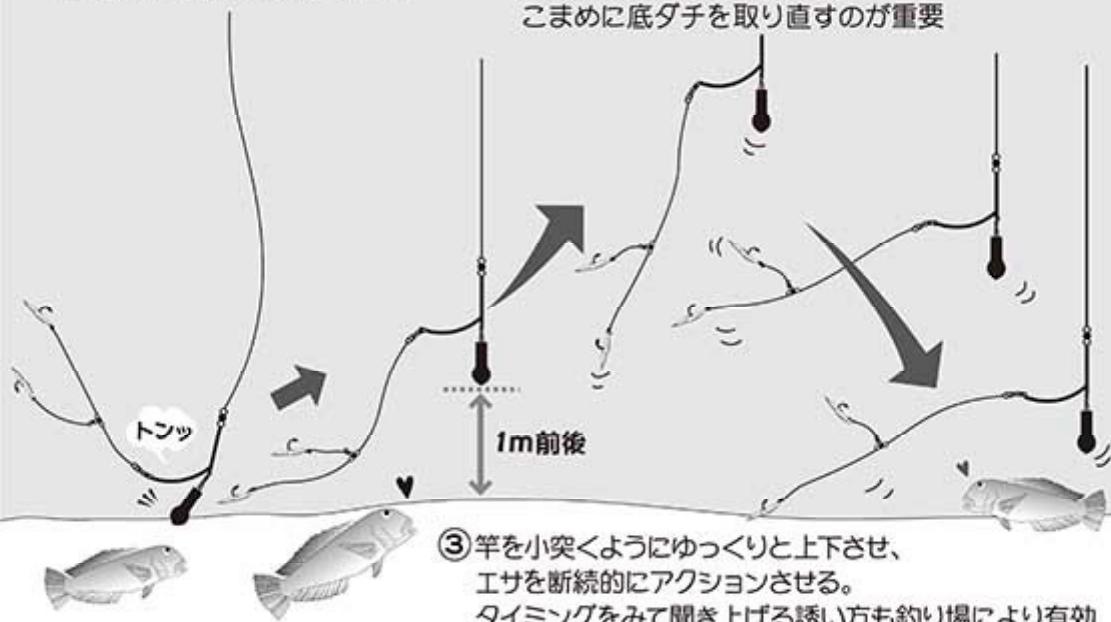
- ・身がしっかりと
したものを見つける
- ・尾羽根を取り、
切り口からハリ先を入れ、
腹に抜く
- ・真っすぐになるように
整える

アマダイの釣り方

基本の釣り方は、投入後オモリが着底したら素早くイトフケを巻き取って仕掛け全長の半分(約1m)巻き上げます。この瞬間から、アマダイがエサやオモリの動きを見ていることがあるので、雑にしないようにしましょう。

アマダイ タナ取り＆誘いのイメージ

- ① オモリが着底したら底ダチを取り
1mほど浮かせて
エサを底～50cmの位置にする
- ② 30秒～2分に1回大きく竿をリフトさせる。
ポーズ後、ゆっくりエサを落とす。
これが誘いにつながるため、
こまめに底ダチを取り直すのが重要



- ③ 竿を小突くようにゆっくりと上下させ、
エサを断続的にアクションさせる。
タイミングをみて聞き上げる誘い方も釣り場により有効

ミチイトが斜めに入るときは何度もオモリをトントンさせながらイトフケを取り、ミチイトが垂直になってから正確なタナ取りを行います。

タナを取ったら竿は水平～やや下げた状態でキープ。仕掛けが馴染んだころを見計らって、ゆっくり大きく誘い上げ、ゆっくり竿を元の位置まで下げる。あとは一定のリズムで同様の誘いを繰り返しましょう。

頻繁にタナを取り直す

アマダイ釣りはとにかく正確なタナ取りが肝心になります。タナ取りの理想としては海底付近をエサが漂う位置。仕掛けが浮きすぎてしまうと釣れず、上針まで底にベッタリと着いてしまっても釣れる確率は減ります。船は常に動いており、海底は砂泥底で緩やかな力ケアガリ、または少しずつ深くなるカケサガリなので、こまめにタナ取りを繰り返すことが肝心です。

ゲストでタナを見極める

潮の速さやエサの重さ、仕掛けの長さによっても仕掛けの浮き上がり方が変わります。基本のタナは1mですが潮の速さによって50cm～1m上げたり、50cm下げたりと状況に応じて調整しましょう。また、ゲストによって潮の速さがどの程度なのか見極めが可能です。

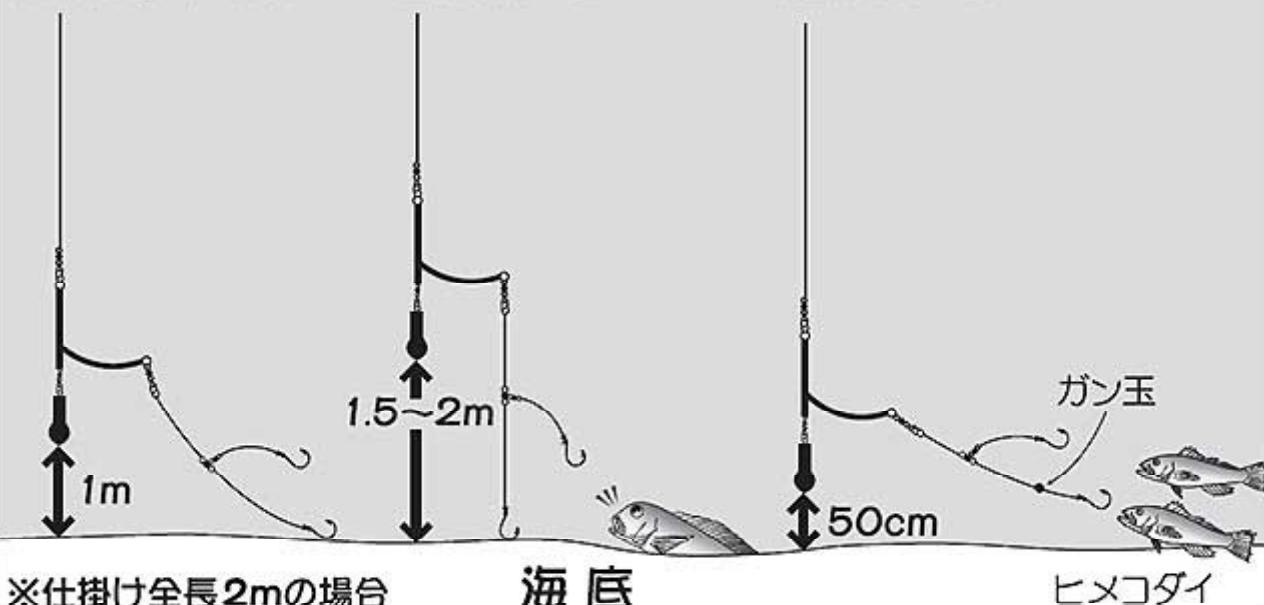
アマダイ タナ取りのイメージ

海面

〈基本のタナ取り〉

〈潮が緩い時〉

〈潮が速い時〉



アマダイ釣りは誘いが有効な場合が多いです。誘い方の種類は様々ですが主なパターンとしては下記のようなものになります。

1.誘い上げ・誘い下げ：前述した基本の釣り方と同じ誘い。1mのタナから50cm～1mほど誘い上げてから、ゆっくりと誘い下げるを一定間隔で繰り返す。誘い上げ、誘い下げ時にはステイする時間を取りのがコツ。

2.シャクリ：50cm～1mほどのタナで小さくシャクって5～10秒程度ステイを繰り返す。仕掛けを海底からふわっと浮かせて漂わせるイメージ。

3.上下にフワフワ：下針のハリスにガン玉を打ち、50cm前後のタナで竿先をフワフワと上下させ続ける。上針で食わせるイメージで誘う。

4.小突き：底を取つたら海底をオモリでトントンと小突いて砂煙を上げる。その後誘い上げて1m以内のタナでステイ。誘い下げて再度海底を小突き一誘い上げを繰り返す(その他の釣り方で、底を取つた際に小突くのも効果的)。

まったく誘わない置き竿のほうが釣れる日などもあり、状況によって効果的な誘い方は変わってきます。誘いの種類だけでなく、誘いの幅や早さ、ステイの時間も重要です。エサ取りが多い場合はステイの時間を減らしたり、早く動かすなど色々と考えつつ試してみましょう。まわりで釣れている人の真似をするのも釣果アップに繋がります。

以上です。当日、頑張りましょう！